

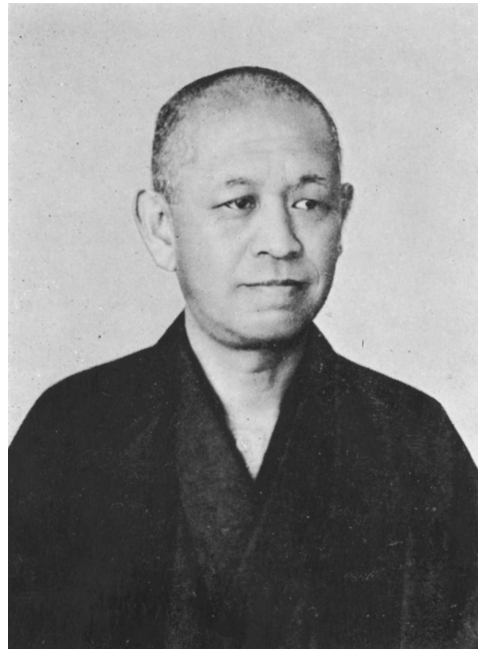
大原孫三郎が遺したもの

特集にあたって

2008年7月25日（金）、岡山県倉敷の富豪・大原孫三郎によって設立された施設・機関によって、「大原孫三郎関連施設・機関ネットワーク」（大原ネットワーク）が結成された。これは、法政大学大原社会問題研究所と労働科学研究所の呼びかけにより実現したもので、相互の連携と協力により、大原孫三郎の社会的事業活動の精神を受け継いで社会貢献活動を行っていかうとするものである。

大原孫三郎

参加機関は、法政大学大原社会問題研究所（創設1919年、当時大原社会問題研究所）、川崎市の労働科学研究所（同21年、当時倉敷労働科学研究所）、倉敷市の岡山大資源生物科学研究所（同14年、当時大原奨農会農業研究所）、倉敷中央病院（同23年、当時倉紡中央病院）、大原美術館（同30年）の5施設・機関で、今後、宮崎県茶臼原の石井記念友愛社や大阪府の石井記念愛染園などの関連施設にも、参加を呼びかけていく予定である。



このネットワークは、相互の事業や活動に協力することを目的とし、必要に応じて、交流会やシンポジウムなど各種の企画に取り組むこととした。その手始めとして、結成当日の25日にシンポジウム「大原孫三郎が遺したもの」が法政大学市ヶ谷キャンパスのボアソナード・タワーで開かれ、約40人が出席した。本特集は、参加機関の代表による報告の記録である。

（鈴木 玲）

— 大原ネットワーク・シンポジウム —

大原孫三郎が遺したものの

「儂の眼には十年先が見える」。その口癖通り、岡山県倉敷の富豪・大原孫三郎が蒔いた種は花開き、百年近い歳月を経た今日も名前や形を変えて社会貢献の一端をになっています。これらの機関によって「大原ネットワーク」を発足させた機会に、大原孫三郎の事蹟と遺産を再確認するシンポジウムを開催いたします。

共催 法政大学大原社会問題研究所
財団法人 労働科学研究所

日時 2008年7月25日（金）午後1時～5時

会場 法政大学市ヶ谷キャンパス・ボアソナードタワー25階B会議室

【プログラム】

大原農研から資源生物科学研究所へ
大原社会問題研究所の歴史と現状
社会を変革する労働科学の歴史と今後の展開
大原美術館：その歴史と現在
持続的成長をめざして一創設者のおもいの具現化

岡山大学資源生物科学研究所所長 村田 稔
法政大学大原社会問題研究所所長 五十嵐仁
労働科学研究所所長 酒井一博
大原美術館学芸課長 柳沢秀行
倉敷中央病院常務理事 相田俊夫
(司会 労働科学研究所副所長 北島洋樹)

(注) 肩書きは、2008年7月現在

シンポジウムの様子

